拡張する教科書

ARを活用した学習指導案例

表現／絵画・彫刻

平成 29 年度版高等学校『美術 1』内容解説資料

「作家の手法　日本画家 森田りえ子」

AR 該当箇所：教科書 P.7　赤枠部分

時間数　7時間

準備するもの

●**生徒**●　教科書,植物もしくは植物の写真（複数）,鉛筆,消しゴム,アクリル絵の具,パレット,筆,筆洗

●**教師**●　教科書,タブレットもしくはスマートフォン（COCOARアプリがダウンロードされた端末）,プロジェクター,生徒作品の見本,さまざまな種類の筆,モダンテクニックの道具,画用紙,メッセージカード

ARの動画を鑑賞し，植物の美しさを描く

Augmented Reality AR 拡張現実

題材の目標

感じ取ったイメージに合わせて構図や描き方を工夫し，植物を描いてみよう。

ねらい

ARで鑑賞できる動画「作家の手法　日本画家 森田りえ子」からは，植物を描くための技法や，作家が植物という対象に向かう姿勢を学ぶことができる。その映像からの刺激を導入に，中学校で学んできた絵の具の使い方を思い出しながら植物を描く活動をする。植物の美しさや生命感を表現するために，生徒はそれぞれが学んできた表現方法を駆使することで，自分の得意な方法を発見することができるだろう。

観点別評価の規準

❶	美術への関心・意欲・態度	植物の美しさを感じ取り，制作に臨もうとしている。
❷	発想・構想の能力	植物の美しさに合った表現方法を考えることができている。
❸	創造的な技能	自分の選んだ技法を用いて，植物の美しさを表現できている。
❹	鑑賞の能力	友達の多様な表現方法を鑑賞して，自分の描画に生かすことができている。

授業の展開

生徒の活動	教師の指導と評価の留意点	評価の規準	時間数
導入 ◎ARの動画「作家の手法　日本画家 森田りえ子」を鑑賞する。 ◎教科書や前年度の作品で植物を描いた作品を鑑賞する。	◎技法だけでなく，作家が植物と向き合う姿勢や，植物から受けたインスピレーションなども感じ取らせる。 ◎さまざまな描画方法があり，中学校で習ってきた方法が応用できることを理解させる。	❶ ❹	1 時間
構想を練る ◎対象となる植物を探す。 ◎中学校で学んできた，さまざまな絵の具の塗り方を思い出し，構想を練る。	◎植物は，生徒の身近なところから探させる。 ◎画面上でどのように構成し，どう彩色するか生徒に考えさせる。 ◎厚塗り，薄塗りなど，学んできた表現方法を活用し，構想を練らせる。	❶ ❷	1 時間
下描き，彩色 ◎下描きでは，スケッチや複数の写真を活用する。 ◎植物の立体感を意識する。 ◎どういう描画方法が得意かを考えて，彩色を行う。 ◎描きたい方向性に迷った場合は，先生に伝えて，相談する。タブレットやスマートフォンを授業で活用することが可能なら，ARの映像を適宜参照する。	◎写真をそのまま写したような作品にならないように留意させる。 ◎生徒により彩色方法は異なるので，一人一人の彩色方法を理解し，会話を通してその生徒に即したアドバイスを行う。 ◎会話では生徒の作品のよい点を認め，中学まで学んできたことが高校の美術でも生かせることに自信をもたせる。	❸	4 時間
まとめ ◎ARで鑑賞した森田りえ子のインタビューを思い出しながら，自分のメッセージカードに，植物と向き合って感じたことを記入し，作品とともに掲示する。 ◎作品を全員で鑑賞し，感じたことを友達へのメッセージカードに記入して，作品についての意見を交換する。	◎お互いの作品のよい点を確認させ，今後は自分の行わなかった技法にも挑戦できるよう意欲をもたせる。 ◎次年度への参考例として生徒作品はカラーコピーを取って保存する。	❹	1 時間

指導のポイント

■導入

導入ではARを活用し，ドキュメンタリー映像「作家の手法　日本画家 森田りえ子」をプロジェクターで投影し，鑑賞させる。「葉を描くときは葉脈を意識する」「塗りやすいように画面を動かす」「緑だからといって緑ばかりを混ぜない」など，技法のポイントが理解できると同時に，葉や花に直接触れることによって，植物の構造を感じながら表現していく，作家の対象との向き合い方も知ることができるだろう。

ARの映像「作家の手法　日本画家 森田りえ子」より。

■構図と下描き

この題材では中学時に学んできた彩色方法を思い出しながら，自分の得意な方法を発見するのを目標とするので，構図は比較的オーソドックスなものにしたい。下描きでは本物を見つめて描かせることが最善であるが，長期間のスケッチは難しいので写真を撮らせてもよい。その際は，単一の方向だけでなく，多数の方向から撮らせ，植物の立体感を意識させるようにしたい。

■彩色

タブレットやスマートフォンを授業で活用することが可能なら，彩色の段階でもARの映像をそれぞれの端末で確認させるとよいだろう。「花は花だけでなく，根があり，茎があり，葉があり，つぼみがあり，それで花がある。その全体としてひとつの生命である」といった森田りえ子の言葉にも花の美しさを表現するヒントが隠されている。

厚塗り作品の下描き。細かい花の形まで捉えている。

自分がどういう彩色方法を学んできて，どのような彩色が得意なのか，わかっていない場合も多い。そこで生徒一人一人との会話に時間をかけて自分の描きたい方向を探らせていきたい。

画材は基本的にアクリル絵の具とする。水の加減により透明水彩のように使うこともでき，厚く塗ることで油絵のように塗ることもできるからである。ただし，その他の画材（例えばパステルやペンなど）を使用したい場合や，モダンテクニックの技法を使いたい場合は積極的に奨励し，認めることとする。彩色を開始してからの活動は個人によって方向性が変わってくるので生徒一人一人が違う塗り方をする場合が多い。ここでも教師と生徒の個別の関わり合いを大事にしていきたい。

■完成から展示

完成後に全員の作品を展示する。作品脇にはメッセージカードを挿入できるケースを設け，完成後も生徒同士が意見を交換できるようにしたい。

参考作品。絵の具は厚みをつけて，彩色している。
背景はスポンジを当ててぼかしを入れている。

参考作品。特に葉の部分は薄塗りのグラデーションで効果的に描かれている。